

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル:

使用評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三井住友海上金沢ビル	階数	地上5F
建設地	石川県金沢市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	165 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2024年7月12日
敷地面積	1,021 m ²	作成者	佐藤健博
建築面積	843 m ²	確認日	2024年7月12日
延床面積	4,465 m ²	確認者	佐藤健博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	59%
③上記+②以外の	58%
④上記+	58%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 4.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

音環境	4.4
温熱環境	3.5
光・視環境	3.5
空気質環境	4.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

機能性	4.2
耐用性	4.5
対応性	3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	4.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.2
効率的	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	4.0
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

地球温暖化	4.6
地域環境	3.7
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内) 施設利用者にアンケートを行い、什器レイアウトや空間をご提案。建物目の前の街路樹を借景してワークラウンジの空間演出を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
三井住友海上金沢ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.1
Q1 室内環境					0.40		-		3.9
1 音環境				4.4	0.15	-	-		4.4
1.1 室内騒音レベル		特記仕様書による。		5.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		開口部サッシの遮音性能T-2以上確保		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		壁種リストW-2G+A-1はD37		3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		1.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		床:タイルカーペット・天井岩綿吸音板(システム天井)		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.5	0.35	-	-		3.5
2.1 室温制御				4.1	0.50	-	-		
1 室温		執務室は冬期24.0℃、夏期24.0℃を満たす能力の空調機を設置		5.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能		Low-E複層ガラスの導入		3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		タスクアンビエント空調を採用し、ゾーンごとに個別制御が可能な		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		冬季湿度40%以上を確保する計画としている。		3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		パッケージ形空調和機		3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-		3.5
3.1 昼光利用				2.8	0.30	-	-		
1 昼光率		算出結果1.085%		2.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口		南面に窓あり。		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		全面開口(カーテンウォール)、ガラスパーテーション		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインドの設置		3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		全般照明方式の場合で、平均照度810lxであり、500lx以上1000lx		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		自動照明制御ができる。		5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.7	0.25	-	-		4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		屋内の建材すべてにF☆☆☆☆を採用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				4.0	0.30	-	-		
1 換気量		30m ³ /h人		4.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能		執務室の窓は開閉不可能で自然換気有効開口が無い。(機械換		3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		給排気の距離を適切に確保している。		5.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視をWEB上でできるシステムとしている。		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室の設置		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.2
1 機能性				4.2	0.40	-	-		4.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		一人当たり9.28m ² の執務スペースを確保。		4.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		執務室はOAフロアによりレイアウト変更に対応		3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		執務室天高2.8m		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		6%のリフレッシュスペースと3Fに自販機コーナーを設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		-		5.0	0.33	3.0	-		
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.5	0.30	-	-		4.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		付加制振による損傷制御設計		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		付加制振による損傷制御設計		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		PC板、アルミカーテンウォール		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		塩ビタイル・タイルカーペット・ビニルクロス		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ほぼ全てに垂鉛鉄板を使用		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		汚水配管・雑排水の硬質ビニル管にB、通気管にAを使用、Eは不		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		パッケージ型空調機		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具、緊急排水槽、受水槽に水道蛇口を設置		4.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAとして設計。		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		5.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.9	0.30	-	-	3.9
	3.1 空間のゆとり		4.2	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	各階の階高を4.2mとしている。	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.32	3.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	床スラブ・小梁のみ積載荷重を割り増しするためレベルを一つ下げ	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.8	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	PSおよび天井裏配管としている。	4.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	EPSおよび天井裏にてケーブルラックでの配線としている	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	EPSおよび天井裏にてケーブルラックでの配線としている	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	キュービクルの将来増設用スペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	4.1
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	4.0
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)にて算出	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	南・西面に全面ガラスカーテンウォールの設置	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	ZEB ready 取得	4.2	0.50	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価		4.2	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	運用時はZEB Readyの目標値に沿って建物管理を行う	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	運用時はZEB Readyの目標値に沿って建物管理を行う	5.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.0	0.60	-	-	4.0
	2.1 材料使用量の削減	ベースパック工法、QLデッキ、クラインパイルアンカー工法の採用	5.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット・塩ビタイル・岩綿吸音板	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	N2	4.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	5.0	0.33	-	-	
	3 冷媒	R410A,R32	3.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮		4.6	0.33	-	-	4.6
2	地域環境への配慮		3.7	0.33	-	-	3.7
	2.1 大気汚染防止	-	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	4.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	グレア防止のため、ガラス面の外壁にルーバーを設置	4.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

三井住友海上金沢ビル

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0		○	○		-	○	○	○	○		○	○	○	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	11.0		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	-	○	○	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	1.0	1.0	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	2.0	3.0	-	2.0	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	5.0		1.0	1.0	3.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0		○	○	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	2.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) 0.4 U値(W/m2K) 窓システム 1.8 屋根 - 外壁 0.4 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.1%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 9.3㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 38.1 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.8 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 6.4% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.2 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 32.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4900 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 21% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 67% 水平投影面積率 48% 地表面对策面積率 4% 舗装面積率 12%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.68 断熱等性能等級 等級4 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% 太陽光 7.6kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
3 設備システムの高効率化	BEI/BEI _m 再エネ有 0.44 無 0.46 オフサイト再エネ有 0.44 太陽光発電
非住宅部分	一次エネ削減率 再エネ有 無 -
集合住宅の評価	
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 タイルカーペット・塩化ビニル床材等 特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 88% 隣棟間隔指標Rw - 地表面对策面積率 3.0% 屋根面对策面積率 0.0% 外壁面对策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 1,048㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 40.702 m 基準高さHb 29.08 m 緑地 37㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡